

「北海道マリンビジョンコンテスト 2023 表彰式」について

北海道開発局 農業水産部 水産課

令和6年7月1日に「北海道マリンビジョン促進期成会」（以下、「期成会」という）の総会が札幌市内で開催され、関係者約100名が出席しました。期成会総会に併せて、「北海道マリンビジョンコンテスト2023」（以下、コンテスト）の表彰式が行われましたので報告します。



各地域で策定された地域マリンビジョンの実現に貢献した優れた取組を表彰し、取組の更なる推進や他地域への活動の普及を図るため、期成会と北海道開発局との共催によりコンテストを開催しています。

平成28年度の第9回目までは表彰を「総合部門」「個別取組部門」としていましたが、平成29年度の第10回目以降は「最優良賞」「優良賞」「奨励賞」に見直して実施しております。

今回、第14回目となるコンテストでは、最優良賞はウトロ地域マリンビジョン協議会、優良賞は室蘭地域マリンビジョン協議会、根室地域(落石地区)マリンビジョン協議会、根室地域(歯舞地区)マリンビジョン協議会、奨励賞は砂原地域マリンビジョン協議会が受賞し、それぞれ関係者に表彰状が授与されました。

受賞した取組の概要は以下のとおりです。

【最優良賞】ウトロ地域

ウトロ地域では、知床の知名度や水揚げ見学が可能な漁港、鮭の遡上観察が出来る河川等を生かして、ウトロ漁港と鮭の観光資源化、さらに鮭の地域ブランド化を目指し「鮭、日本一のまち」のPRに継続的に取り組んでいます。

令和5年度は、これまでの取組を発展させ、「鮭を知り、鮭から学ぶ」をテーマに10月1日から10日までの期間を「知床鮭ウィーク」と銘打って、期間中の毎日、地元の大型ホテルへ鮭を無償提供し、展示や料理に活用されたほか、「鮭のトークショー」を1日に3回開催し、10日間で延べ600人以上が参加するなど大きな反響がありました。

また、「ウトロ鮭テラス」（人工地盤2F）を活用した

鮭の水揚げ見学は好評を博しており、観光ガイド事業者の体験メニューに取り込まれているほか、鮭を使ったおにぎりキッチンカーの試験出店を行うなど、「鮭、日本一のまち」の更なる知名度向上に努めています。

このような地元観光産業と連携した取組は、漁港施設の観光への活用、地域資源の情報発信の模範となる取組であり、また、取組のステップアップが図られていることから、最優良賞に選定されました。



最優良賞の表彰状授与の様子

【優良賞】室蘭地域

室蘭地域では、追直漁港の人工島などで水揚げされた室蘭産ホタテを活用して、「はたてチリバーガー」を開発し、市内で開催される各種イベントで販売を行うことで市民への認知度は向上しましたが、市外での認知度は低く、市外向けの情報発信、室蘭産水産物の知名度の向上が課題となっていました。

そこで室蘭地域では、令和5年に静岡県で開催される「Sea級グルメ全国大会 in 沼津」に参加し、はたてチリバーガーを販売することを決定。本イベントでは、室蘭市や室蘭漁協の職員に加えて、地元高校生のボランティアらが協力して調理、販売を行い、2日間で2,287個を売り上げるなど大きな反響がありました。

この取組は、地域で協力して開発した商品を通じて、地元産水産物の消費促進や知名度の向上を図った事例で、他地域の模範となる取組であると評価され、優良賞に選定されました。

【優良賞】根室地域(落石地区)

落石地域では、落石岬などの優れた景観、自然、水産物などの環境コンテンツの集積に恵まれながらも、孤立した立地などの問題から、漁業以外の関連産業が形成されていない状況にありました。

根室地域(落石地区)マリンビジョン協議会では、こうした課題の解決に向けて、優れた観光資源を活用したエコツーリズムの推進を図り、多くの来訪者との交流や、所得機会の向上に向けた取組を進めており、休漁期に漁業者の自営船をクルーズ船として活用し、漁業者自らがガイドとなって運航する「落石ネイチャークルーズ」を行っています。

近年は、外国人の参加者も年々増加しているため、翻訳機を用意するなどして外国人観光客の受入れについても力を入れています。

また、歩きながら自然を楽しむ「落石フットパス」では、ガイド不足が課題となっていることから、外部から講師をお招きして地元のガイドを養成するなど、地域の人材育成にも努めています。

これらの取組は、地域ならではの自然を生かした漁村の魅力発信の好事例として、また、地域の人材育成にも努めていることが高く評価され、優良賞に選定されました。

【優良賞】根室地域(歯舞地区)

歯舞地域の太宗漁業である昆布漁においては、近年、漁業従事者の高齢化や担い手不足が顕著となり、労力の確保が課題となっていました。

根室地域(歯舞地区)マリンビジョン協議会では、こうした課題に対応するため、根室市が相互協力協定を結んでいる東海大学静岡キャンパスと連携し、同大学の「就労型インターンシップ」と歯舞漁協の「観光・滞在型の渚泊体験事業」を融合させた新たなインターンシップ制度を試験的に導入しました。

この取組は、一定期間、学生が漁家へ滞在するもので、漁家は学生のために食事と寝床を提供し、学生が昆布漁の作業全般を担うことで、昆布漁家の軽労化が図られ、学生側は地域住民と触れあう機会が増えることで、地域性や風土を深く学ぶことができ、漁業の魅力ややりがいを体験することができます。

この取組は、歯舞地域と大学の双方にメリットが得られるものとなっているほか、地域の魅力の発信や交流人口の拡大、若年層への水産業の理解向上、担い手不足への対応も図られる事業内容であり、これらの取組が高く評価され、優良賞に選定されました。



優良賞の表彰状授与の様子

【奨励賞】砂原地域

砂原地域は、ホタテガイ養殖とスケトウダラ漁を二大太宗漁業としており、漁業と水産加工業が盛んな地域ですが、一方で、海が身近な環境にありながらも、近年は子供たちの魚離れが進んでいました。

そこで、砂原地域マリンビジョン協議会では、魚とのふれあいや魚食文化の普及を目的として、地元のさわら小学校や砂原中学校を対象に、ホタテガイの耳釣り・刺網漁業の網外し体験などを続けるとともに、森町がホタテを全国の学校へ提供した縁により、東京都の小学校からオンラインでの食育授業の依頼があるなど、地域外への発展も見えてきました。

この取組は、若手の漁業者が講師として参画しており、児童生徒へ向けた効果だけでなく、若手漁業者のやりがいにも繋がっています。また、令和5年からの新たな取組として、地域おこし協力隊と連携して食育授業等の様子を町の公式 YouTube へアップロードするなど、活動のPRも行われています。

若手漁業者の熱意と積極的なPRにより、今後、更なる取組の発展が期待されるため、奨励賞に選定されました。

